

2023年11月発行(年3回)
通巻130号

建設雇用と改善
TOKYO

2023・11
No. **130**

都内の建設業に働く人の「雇用・労働・安全」関係の情報誌【テラ】

Terra

Employment & Improvement of the Construction Corporations



地上と地下で密接コミュニケーション

北区王子五丁目地内から同区昭和町三丁目地先間
配水本管(1000mm・800mm)用トンネル築造及びトンネル内配管工事
〔鉄建・南海辰村・ニューテック康和建设共同企業体〕

みらいをつくる 建設×女性力

白石文香さん

(ショーボンド建設株式会社)

明日を担うづくり

株式会社セーフティ&ベル

(防犯・防災システム、映像・通信ネットワークシステム、省エネ・介護システムなどの企画・販売・施工)

これだけは知っておきたい

まったなし 時間外労働の上限規制適用問題

■現場で使える天気予報

■News Digest

■TOKYO 名所ウォーキング

■東京労働局からのお知らせ

一般社団法人東京建設業協会 建設労働者確保育成事業推進委員会



内挿管の敷設を待つシールドトンネル(φ1,850mm)



北区王子五丁目地内から同区昭和町三丁目地先間 配水本管(1000mm・800mm)用トンネル築造及びトンネル内配管工事

発注者 ▶ 東京都水道局

施工者 ▶ 鉄建・南海辰村・ニューテック康和建设共同企業体

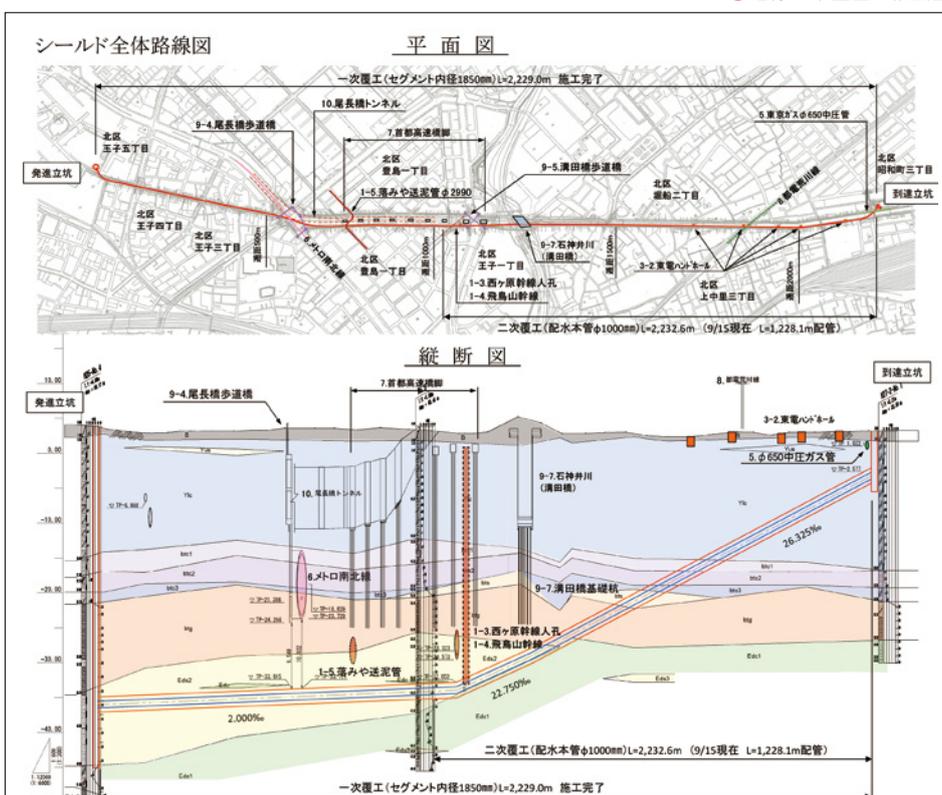
工期 ▶ 2020年5月7日～2024年4月5日

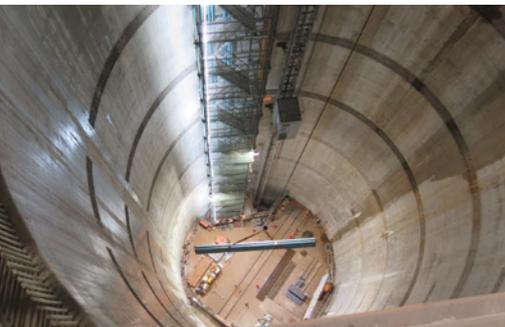
工事場所 ▶ 北区王子5丁目2番地内から同区昭和町3丁目10番地先間

地上と地下で密接コミュニケーション

📍路線の平面図・縦断面図

北区の南方を走る幹線道路の地下で、東京都水道局による配水本管の整備が進行中だ。23区東部の複数自治体にまたがる配水区域を分割し、給水の安定性・安全性を確保する取り組みの一環。その第1工区を手掛ける鉄建・南海辰村・ニューテック康和JVの作業拠点は、東京メトロ南北線・王子神谷駅から徒歩5分ほどの都営住宅やUR賃貸住宅、保育園などが集積するエリアにある。延長2km超のトンネル構築などを内容とした工事の注意点や工夫を取材した。

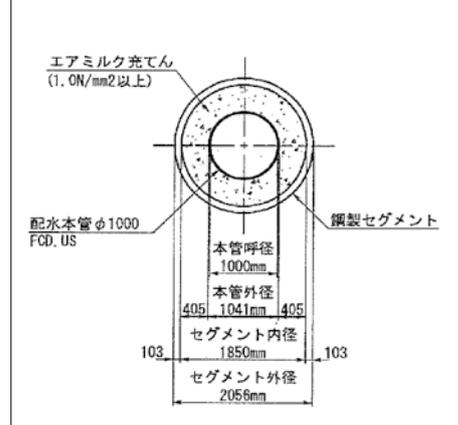




① 深さ約40mの発進立坑



② 整然と並ぶダクティル鑄鉄製の内挿管 (φ1,000mm)



③ トンネルなどの断面図

地盤性状を把握して シールドを制御

23区の東部は昭和50年代まで金町浄水場(葛飾区)からの1系統で給水。ただ、配水区域が广大で、災害や事故が起これば断水、濁水の影響が広範囲に及ぶ恐れがあった。このため段階的に配水区域を五つに分割し、拠点となる給水所を設けて三郷浄水場(埼玉県三郷市)からの給水も可能にする整備を進めている。

今回の配水本管は、建設中の王子給水所(仮称)を介して北区の南側や荒川区の西側などに給水するためのもの。1次覆工として、北区王子5丁目に設けた発進立坑(別発注)から区道を経て明治通りの下を南東に進み、同区昭和町3丁目の到達立坑(別発注)に至る延長約2,230m、内径1,850mmのさや管トンネルを泥水式シールド工法で構築する。

砂層や砂れき層、シルト層と土質が変化する地中

を、下水道管や南北線のトンネル、石神井川の護岸基礎といった複数の埋設物を避けながら掘削。発進立坑付近で約38mの土被りは、最大約2.6%の勾配で上昇し、到達立坑付近では約6mまで浅くなる。地盤沈下や陥没などのリスクを防いで無事に完了させるべく、現場を統括する鹿田泰史所長(鉄建建設)は「土質の変化に合わせながら、泥水の性状と圧力の管理を最重点に置いてシールドマシンをコントロールした」と説明してくれた。

音楽で注意喚起

1次覆工は今年3月に完了。取材した9月下旬時点では、2次覆工となる内挿管の敷設と、さや管との間のエアミルク充填を進めていた。

内挿管は内径1,000mmで、1本あたり長さ6m、重さ2.5tのダクティル鑄鉄製。これを深さ約40m



④ 発進立坑内に搬入している間は「エリーゼのために」のメロディーが響く

⑤ (右から) 現場代理人兼監理技術者の鹿田泰史さん、工事係長の佐々木拓也さん、主任技術者の梁瀬凌祐さん

の発進立坑に投入する作業を1日に5回繰り返す。

地上では、吊り上げ時に正しく玉掛けできているかをしっかりチェック。発進立坑内に降ろす際も直下に人がいないよう、投入前から音楽を鳴らして注意喚起する。目視での確認を「現場のルールとして徹底している」(鹿田さん)という。

工事用エレベーターで発進立坑を降りると、1次覆工で構築したさや管トンネルの坑口が現れる。大人1人が腰を曲げて歩ける程度の大きさだ。退避スペースが限られているため、機材搬送などでバッテリー機関車が坑内を通っている間は人の立ち入りを禁止している。

無人バッテリー機関車を有効活用

このバッテリー機関車が安全性と生産性の向上に一役買っているという。自動無人運転システムを搭載しているため専従のオペレーターが不要。AIカメラで人と物を判別し、逸走や接触を自動で防ぐ。坑内にWi-Fi環境を整えており、機関車の位置や進行方向をリアルタイムで遠隔監視できる仕様だ。

可燃性ガスの発生に備える

シールド工事では、坑内の換気が重要だ。特にこの現場では、地層から可燃性ガスが発生する恐れがあることが事前の調査で分かった。対策として、換気設備に加え、ガスの24時間リアルタイム計測システムを配備。2次覆工でも、作業員は携帯式のガス検知器と熱中症指数の計測器を肌身離さず持ち歩いている。鹿田さんは「異常が起きた場合はすぐ退避するように」との指示にとどまらず、携帯電話でいつでも連絡を取れる体制を整えているという。

安全と品質の確保を両立

1次覆工は昼夜間施工で片番7人程度、2次覆工には8~9人程度が従事。2020年5月の着工から



④発進立坑内にも垂れ幕を掲示して災害絶滅を呼び掛け



⑤着工以来13万時間超の無災害を記録



⑥現場に導入したバッテリー機関車(鉄建建設リリースより)



⑦防音パネルのイメージ図で住民らに工事を紹介

連続13万2,080時間の無事故・無災害記録を継続中だ。鹿田さんは「今後も重量物を扱う作業が続く。ルール順守を徹底できるよう管理したい」と気を引き締めた。

水道は私たちの生活と経済活動を支えるために必要不可欠なインフラの一つ。無事故・無災害はもとより、安心でおいしい水を24時間・365日供給するという使命を果たすため、現場では地下と地上で密にコミュニケーションを図りながらの作業が続く。



周辺道路の「ハザードマップ」を作って新規入場者の教育に活用

現場で働く人々



(株)ホープ **佐々木 雄基さん** 配管工
(ささき・ゆうき)

内挿管の接合と、下請け業者の安全管理を担当しています。トンネル内は平地が少ない特殊な環境なので、無理な体勢で作業しないよう気を付けています。お互いの体調の把握も欠かせません。現場が一つのチームとして連携できるよう、声を掛け合って、慣れて見落としがちな箇所をしつこいくらい確認しています。



小松建設工事(株) **翼 久隆さん** 配管工
(たつみ・ひさたか)

重さ2.5tの内挿管を扱っているので、つり荷が落下・滑落しないよう対策を徹底しています。玉掛けの確認と人払いという基本を守ることが大切ですね。作業中の声掛けだけでなく、休憩中にもコミュニケーションを取るよう心掛けています。



(株)MSK **山中 正行さん** 警備
(やまなか・まさゆき)

ゲート前での誘導を担当しています。周辺に住宅や学校が多いので、登下校の時間帯は特に第三者を優先するよう気を配っています。仮囲いに貼ってある工法説明図やデジタルサイネージを地域住民の方が眺めている姿をよく目にしますよ。

～みらいをつくる～ 建設×女性力

〈構造物総合メンテナンス〉
ショーボンド建設株式会社(中央区)

白石文香さん
(しらいし・ふみか)



メンテ業界の「女性活躍」モデルになりたい

高校生の時に東日本大震災があり、「復興に関わる仕事をしたい」との思いで、大学は土木工学の道へ。就職先としてゼネコンや建設コンサルタントにも興味があったが、今後のインフラの大更新などを見据え、補修やメンテナンスに取り組む今の会社を選んだ。

入社当時のことを「見た目が怖そうな職人から、子供のように見られていた」と笑顔で振り返るが、今ではその職人たちから「前も一緒に働いたね」と声を掛けられるなど、入社6年目の現在は良好な関係を築けている。

また手掛ける現場は、そのほとんどが供用中のインフラであるため、道路管理者をはじめさまざまな関係者との折衝が必要となり、「着工前には、調整や協議に忙殺される」という苦労やプレッシャーがある。ただ最終的に現場が完工し、共に働いた仲間と交わす「お疲れ様でした」の声掛けと、見違える姿に仕上げられた達成感はひとしおで、また次へ向かうエネルギーとなっている。

建設業でも女性が活躍できる場が広がる中で、女性技術者の入社比率も増加している。一方で技術職の場合でも、最初



インフラの状態を入念にチェック

は資格取得に向け現場に配置されるが、その後は図面や数量計算、研究といった内勤職となるケー

スや、営業部門に進むケースがほとんどだ。携わることが多い橋梁の長寿命化改修では、鉛が発生する塗装の過程で、女性の労働基準規則により立ち合いに制約を受けるなど、「もどかしい」と思うことも。それでも自身は今の仕事にやりがいを感じており、現場に残り続けたいという思いが強い。今後は1級土木施工管理技士の資格を取得し、将来は「現場代理人や監理技術者として活躍したい」との夢を持つ。「女性技術者として、メンテナンス業界の現場でも活躍できるというモデルケースとなっていきたい」と、後輩たちへの新たな道を切り開く。



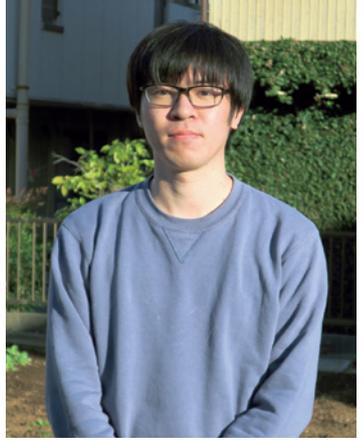
気象条件などに左右される苦労もあるが、現場の仕事にやりがいを感じている

現場で使える天気予報

第14回

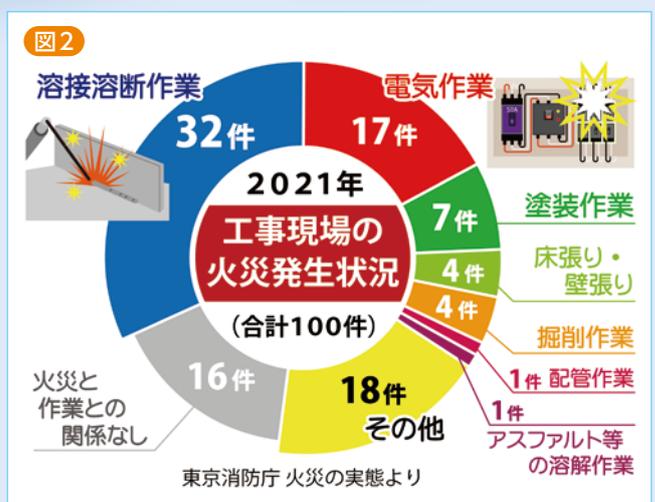
冬は乾燥の季節！ 現場で多い火災原因とその対策とは？

株式会社ライフビジネスウェザー 気象予報士 青柳光彰(あおやぎ・みつあき)



これから冬を迎え、現れやすい「西高東低の気圧配置」。いわゆる冬型の気圧配置になると、東京を含む関東地方では冷たい北西の風が吹きます。日本海側から脊梁山脈を越え、吹き下ろす冷たい風が乾いた空気を運んできます。乾燥を表す一つの指標として湿度があります。

湿度とは、空気中に含まれる水分量の割合を示したもので、簡単に言うと空気の湿り具合を表しています。一口に湿度と言っても多くの種類があり、天気予報などで見聞きする湿度は「相対湿度」となります。相対湿度は空気中の水分量を割合で示す数値に対し、「実効湿度」は、数日間の湿度を考慮することで、木材の乾燥具合、つまり、燃えやすさを示すことができます。気象庁から発表される乾燥注意報は、2種類の湿度を用いて発表されていて、例えば、東京23区と多摩地方の基準は、最小湿度(相対湿度の最小値)が25%以下で、実効湿度が50%以下となる場合です(図1)。特に、東京の冬は冬型の気圧配置が続き、最小湿度が25%以下となる日が多く、乾燥注



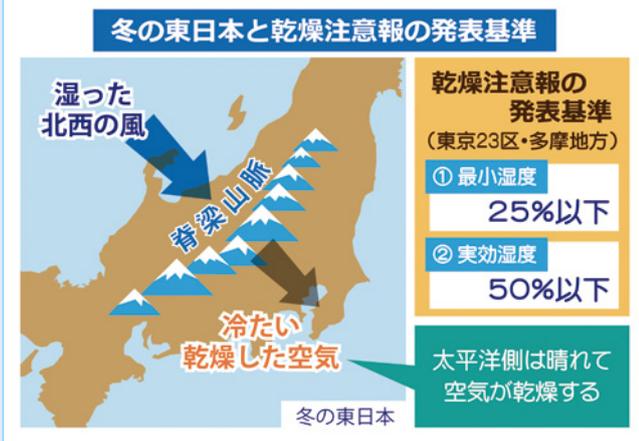
意報が発表されやすいです。

東京で乾燥注意報が発表された場合、工事現場においても火災が発生しやすくなります。2021年の工事現場の火災発生状況を見ると、報告のあがった100件のうち32件が溶接・溶断作業中の火災でした(図2)。また、電気作業中の火災も17件と多く、溶接・溶断作業と電気作業の2つで約5割を占めています。対策としては、作業中は防火シートで囲んだり、近くに消火器を置いたりすることが挙げられます。

また、たばこの不始末による火災も3件発生しています。喫煙場所や吸い殻の始末を徹底することも大切です。更に、避難経路を定期的を確認することで、もし火災が発生してもスムーズに避難することができます。

日ごろから、木材の整理整頓や燃えやすいシンナー・塗装は必要な量のみで管理し、延焼拡大防止を意識するようにしましょう。天気予報などで「冬型の気圧配置」や「乾燥注意報」という言葉を耳にしたら、火災予防を徹底して下さい。

図1



コミュニケーションを 組織と人材育成の基盤に

株式会社
セーフティ&ベル

住宅のインターホンの寿命は15~20年だという。マンションでは、セキュリティを強化するため、インターホンに連動した集合玄関のオートロックが1980年代から普及し、2000年代に入って、そのリニューアル工事が増え始めた。マンション居住者のニーズにきめ細かく対応し、インターホンのリニューアル工事を中心に事業を拡大してきたセーフティ&ベル(本社・品川区)の営業展開と人材育成を取材した。

宇佐見社長



居住者ニーズに対応

あるマンションのインターホンをリニューアルする工事で、メーカーによる管理組合へのプレゼンテーションに同席した時、「居住者を置き去りにして説明している」と思った。セーフティ&ベルの宇佐見聡社長はそう振り返る。

その説明は、設備の専門的な機能の話に終始していた。しかし相手は設備の素人だ。例えば高齢の居住者に対して、モニターの画素数の多さをPRしてもしようがない。ボタンが大きく、使いやすいことの方が重要だ。一方、若い人であれば、タッチパネルのスタイリッシュなデザインが好まれる。

居住者のニーズに合わせた、提案型の営業に乗り出した。同社は現在、インターホンのリニューアル工事の受注額で、独立系の施工会社ではトップに立つ。

提案営業で事業拡大

宇佐見社長は当初、父親がつくった会社を継ぐつもりはなかった。大学を卒業後、計量器やレジスターの大手メーカーに就職。バブル崩壊後のモノが売れない時代に、顧客のメリットを第一に考える提案営業の腕を磨いた。

メーカー入社後10年が経って、コンサルタントなどとしての独立を考えていた時、父親から「家に帰ってほしい」と請われた。「独立するのであれば、

ベースがあるところから始めるのもいいか」と考え、2005年、父親の会社に入った。

会社の仕事は当時、入退室管理システムの施工が中心だった。新たな事業を模索したが、鳴かず飛ばずの状態が1年ほど続いた。そのころメーカーから持ち込まれたのが、マンションのオートロック連動インターホンのリニューアル工事だった。

居住者のニーズに合わせた提案営業によって事業を拡大。入社時に20人ほどだった社員は現在100人を超え、大阪と名古屋にも営業所を置く。

事業の拡大に伴って組織体制の改革にも取り組んだ。まず、営業と施工の役割分担を徹底した。取引先や顧客からの問い



インターホンのリニューアル工事に際して、マンション居住者らにデモ機を使って製品の特徴などを説明する営業アシスタント課の社員

合わせにすぐに対応するため、営業担当者の数も増やした。現在、営業担当は社員の約3割を占めている。営業の特化と強化が売り上げの一層の拡大につながった。

社内に研修施設

現場の施工担当者の育成では、資格取得への支援などのほか、独自の取り組みも行っている。

同社では異業種から転職してくる未経験者が多い。一方、リニューアルの現場で、居住者に仕事を教える姿は見せられない。また、いまの若い人には、「見て覚える」も通用しない。

そこで、現場に入るまでに一定の仕事を身に付けられる研修施設「弱電アカデミー」を社内に設置した。実際に使う機材を置いており、配線などを学ぶことができる。ビルの地下にあり、音を出してもかまわない。また、仕事を覚えた後も、メーカーによって仕様が違う、さまざまな設備の施工技術をあらかじめ修得することにも役立つ。



社内の「弱電アカデミー」で仕事を覚える、異業種からの中途採用者

社員の相互理解促進

営業と施工の業務の分離を徹底する一方、組織の活性化に向け同社では、管理部門を除き、個々の社員のデスクを固定しないフリーアドレスを導入し、コミュニケーションを促進している。他部署の社員同士で飲食する場合、1人当たり毎月3,000円まで支給する制度も設けた。

さらに、社員が増えていく中、相手を理解し合える組織づくりをより積極的に進めようと、人の思考や行動パターンの分類手法であるエニアグラムを活用した研修を継続的に実施している。

また、人材の確保に関して宇佐見社長は「中小企業が生き残っていくためには、女性とシルバー人材の活用がポイントになる」と話す。

女性に関しては、過去に施工部門で採用し、続かなかった苦い経験がある。仕事のことで相談できる同性が身近にいなかったことが原因だった。そこで、まず営業部門から女性の採用を拡大することにした。現在では、社員の約3割が女性で、東京本社の営業部門では約半数、施工部門でも1割以上を女性が占める。

居住者へのきめ細かな対応などで、取り引き先からの女性社員への評価は高い。ライフステージに応じた働きやすい人事制度などで、今後も女性の採用に力を入れていく方針だ。

顧客満足へ独自マニュアル

同社では、他社との差別化に向け、3年前にCS（顧客満足度）向上委員会を設置し、CSに関する独自のマニュアルを検討し、昨年、ハンドブックとしてまとめた。施工に当たっての居住者への十分な説明や、身だしなみなどがポイントだ。マニュアルを社内に浸透・定着させるため、PCとスマホを使った継続的な試験も実施している。

マンションのオートロック連動インターホンのリニューアル市場は今後も拡大していく。宅配ボックスとの連動など、設備のリニューアルをトータルに提案できる企業として、事業をさらに拡充したいと宇佐見社長は考えている。



独自のCS（顧客満足度）マニュアルの作成を進めた、組織横断のメンバーによる検討会

株式会社セーフティ&ベル

会社概要

住所 ● 東京都品川区西五反田7-23-1 第3TOCビル9階

創業 ● 1969年

事業内容 ● 防犯・防災システム、映像・通信ネットワークシステム、省エネ・介護システムなどの企画・販売・施工

資本金 ● 2,000万円

知^{これだけは}っておきたい…働き方改革

まったくなし 時間外労働の 上限規制適用問題

株式会社日本コンサルタントグループ
建設産業研究所 執行役員所長
長谷部雅彦(はせべ・まさひこ)

2024年4月まで半年を切りましたが、時間外労働の上限規制問題(働き方改革)への対応は十分と言えるでしょうか。限られた時間ではありますが、体制の構築に注力いただければと思います。

〈表1〉は、弊社が昨年12月から今年1月に全国の地域建設業者を対象に行った『地域建設業の“働き方改革”に関するアンケート調査』で「働き方改革の推進に重要だと思うことは何でしょうか」との問いに対する上位5回答です。

■表1 Q.働き方改革の推進に重要だと思うことは何でしょうか。

順位	回答内容	回答率
1	発注者の理解(工期面、予算面)	79.7%
2	人材の確保、増員	60.8%
3	経営トップによる意識啓発や声かけ	52.7%
4	発注者の理解(書類などの業務の簡素化)	47.3%
5	業界全体の意識改革(休まないという昔からの風習の払拭)	45.9%

発注者の理解が働き方改革の推進に重要だとお考えの方が多なのは順当なところでは。建設業が受注産業である限り、施主・発注者から適切な工期と予算で発注があり、その上で書類や業務の簡素化が進めば時間外労働の削減問題は解決に近づくといってもよいでしょう。ただ、この問題は自助努力で解決する問題であり、法令化された義務である以上、対応していくしかないのです。

仮にこの問題を放っておくと企業経営にとっては多くのリスクがあります。まず、法令違反による罰金(違反者一人あたり30万円)、公共入札の指名停止などの措置、非効率な業務が続くことによる収

益性や競争力の低下、仕事の成果を評価されないことによる社員のモチベーション低下、長時間労働・休日出勤過多による離職の誘発など、挙げればきりがありません。

なかでも最も懸念されるのは、建設業界のイメージ悪化です。いかに建設DX、ICT施工が進んでも結局建設業には人が必要なのです。業界全体で働き方を変えていかなければ将来を担う若者は建設業に興味すら持ってくれなくなります。

働き方を変えることができず、結果として離職者が増え、入職者は減るのでは建設業に明るい未来はありません。建設業界の2030年問題(技術者・技能者の不足問題)もあり、人材獲得は建設業界、建設会社にとって中期的な最重要課題です。これからの人材採用は地元のライバル企業との人材獲得競争ではなく、他産業との人材の奪い合いなのです。同業他社ばかりを気にするのではなく、他産業の取組を参考にしながら今ここで働きやすい魅力ある産業に変えていくことです。見方を変えればまさに我々が変わるチャンス到来と捉えることができます。

改革への取組がまだ十分でない企業、思うような成果が上げられていない企業があれば、〈表2〉を参考に振り返りをしてみてください。

建設現場も本社事務所も働き方を見直すポイントは同じです。それは「ヒト」「業務」「マネジメント」のチェック・見直しです。3つの観点から、業務の本質や目的を捉え直し、ムリ・ムダ・ムラの削減と業務効率化を図っていただきたいのです。仕事の量が減らないとすれば、業務改善・生産性向上に手を付けられない限り、労働時間も短縮できるはずがありません。

■表2 働き方改革のための3つの視点

視点	要素	確認すべきポイント
ヒト	人員数・配置	業務量に合わせて人員数は能力的に適切か
	役割分担	きちんと業務内容を役割分担できているか
	能力	部下・若手の能力育成を計画的に行っているか
業務	業務の質	顧客の要望や必要な法令などを満たしているか
	業務の量	業務量を効率化できる工夫を講じているか
	業務の難易度	業務を簡素化できる対策が実行できているか
	業務フロー	業務の手順は明確で重複や手戻りはないか
マネジメント	進捗管理	上司は部下の業務状況を把握し、適宜サポートできているか
	報連相	部下は上司に適切に報連相ができているか
	PDCA	組織のPDCAを回せているか

さらに、労働時間の削減に向けては〈表3〉を参考にしてみてください。時間を短縮するには仕事量を減らすか、処理スピードを上げるかしか方法がありません。仕事の量を減らすために意図的に受注量を減らすことも選択肢としてはあり得ますが、この決断はなかなか難しいです。であれば、個々の業務の見直し以外ありません。そもそもこの仕事・書類をなくせないか、他に移譲できないかを考えなければなりません。その方策の一つとしてITとコミュニ

ケーションスキルで現場を支援する建設業の新たな職能を活用することも有効な手立ての一つと言えるでしょう。

労働時間の削減は会社ごとにその取るべき方策はさまざまですが、とにかく経営者を先頭に全社員で知恵を絞ることです。同じ会社で働く仲間ですから、全員が働きやすい職場にするために全員で方策を考え、少しずつでもいいので実感できる成果・結果を出していくことが重要です。

■表3 労働時間を減らす6つのアプローチ

生産性の公式	$\boxed{\text{時間}} \downarrow = \frac{\boxed{\text{仕事量}} \downarrow}{\boxed{\text{処理スピード}} \uparrow}$	
仕事量	①省く	ムダを省き仕事量を減らすことができるか ●顧客提出書類には限界があり、まずは社内書類から
	②移す	その社員からその業務をなくしていくことができるか ●他部署へ分業・後方支援や外注(アウトソーシング)
処理スピード	③育成(スキルアップ)	個のスキル(処理スピード)を上げることができるか ●最も効果が大いだが、成し遂げるまで時間がかかる
	④標準化・閲覧化	仕事の進め方のバラツキをなくす、もしくはタイムロスをなくすことができるか ●過去のデータや標準的な作成結果などを容易に手にすることができる環境の整備
	⑤IT化・DX化	ツールなどによる省力化・自動化ができるか ●自社に適したシステムの導入
	⑥時間の使い方(タイムマネジメント)	効果的な時間の使い方を組織と個人ともに文化とできるか ●時間はすべての人に平等に与えられているもの ●時間は使うものであり、過ごすものではない ●文化は習慣を変えねばならず、習慣は行動の積み重ねである

徳川家康が築いた江戸の町は 現在の東京の礎となった

東京まち歩きライター

鈴木伸子 (すずき・のぶこ)

文筆家・東京まち歩きライター

雑誌「東京人」の元副編集長。

日々東京を徘徊中、執筆中。女鉄道マニアの修行中でもある。
著書に『シブいビル』、『山手線をゆく、大人の町歩き』など。

今年のNHK大河ドラマの主人公は徳川家康。それまでの戦乱の世を終わらせ、250年以上続いた江戸時代と、その礎となった江戸の町を築いたのは家康だ。

1590年に家康が最初に江戸に入ったのは、秀吉の家臣としてだった。秀吉は1590年に小田原を拠点にしていた北条氏を滅ぼして天下を統一し、家康を関東に移封。当時、家康が入城した江戸城には石垣もなく土塁に囲われていただけで、その前には葦に覆われた湿地帯と海が広がっていた。そこから家康は城を整備し、城のそばまで迫っていた日比谷入江を埋め立てていった。

現在の皇居・日比谷堀と、明治以後に日比谷堀を池に造成した日比谷公園の心字池^{しんじいけ}は、その日比谷入江を部分的に残して江戸城の堀にしたと伝えられている。

大規模な土木工事で 治水、水運、水道などの インフラを整備

家康はまた、江戸に入府してすぐに利根川^{とうせん}東遷の事業を代官・伊奈忠次に命じている。当時の利根川は、現在の群馬県みなかみの水源から江戸の町の中央へと流れていた。そこで上流にいくつもの運河を掘って、流れを東側の川に合流させ、最終的に利根川が鹿島灘に流れ出るようにしたのが、この東遷事業である。伊奈家三代が50年以上をかけて完了させた大仕



日比谷湾の名残と言われる日比谷公園の心字池



心字池が堀だった時代の日比谷見附の石垣跡



現在の皇居・日比谷堀



小名木川

事だったが、これによって江戸は洪水の危険のない町となり、関東各地が運河で繋がれるという効果もたらされた。

同時代である1596年から1615年に開削されたのが、江東地区と当時関東一の製塩地帯・行徳を結ん

だ小名木川だ。その目的は、江戸に安全に塩を運ぶこと。この水路は江戸川・利根川流域や、東北からの物流ルート、関東近郊と江戸市中を繋ぐ旅客ルートとしても大いに利用された。

やがて江戸の住民が増えるにつれ、飲料水の確保が必要となる。そこで建設が進められたのが神田上水、玉川上水である。

玉川上水が整備されたのは17世紀半ば。水源は江戸の西方約40kmの羽村。そこから江戸市中まで堀を開削して多摩川の水を引き入れた。この玉川上水の事業を成し遂げたのは玉川兄弟で、厳密な測量により勾配を維持しながら40kmの距離を開削していった不屈の精神は驚異的なものだ。

一方の神田上水は、1590年の家康江戸入府に先立ち、城下に飲料水を確保するために家臣・大久保藤五郎に命じて開設されたもの。その後、現在の井の頭公園の井の頭池などを水源とし、30kmほどの堀を開削。その神田上水の遺跡は、今も江戸川橋や水道橋など都心の各地で見ることができる。中でも文京区本郷にある東京都水道歴史館には、1985年に発見された神田上水の石組みの地下水路・石樋せきひが屋外に移築復元されているなど、江戸時代に整備された水道の遺跡や遺物、資料などが多数展示収蔵されている。

征夷大將軍となり、諸国大名に命じた天下普請

その後家康が天下を取り1603年に江戸幕府を開くと、天下普請として諸大名を動員しての江戸城と江戸の城下町づくりが行われた。現在の皇居(旧・江戸城)の石垣や天守台を築造したのも外堀、内堀の大規模な土木工事を命じられたのも、諸大名であった。

神田山と呼ばれていた高台を切り崩して、その中央を水路として開削する難工事を命じられたのは仙台藩の伊達氏。飯田橋付近から隅田川までの流れは現在の神田川であり、北からの城攻めを防ぐ外堀の役割も果たした。この江戸城側の台地には家康の駿河での家臣たちが移り住んだため、駿河台という地名で呼ばれるようになった。

また、江戸城・現在の皇居のまわりを一周するとその石垣の立派なことに改めて驚く。日頃忘れがちなことだが、皇居(江戸城)は日本一の巨大城廓であり、東京はその城下町なのだ。

四ツ谷、市ヶ谷、飯田橋や東京駅近く常盤橋など



④玉川兄弟の像



④東京都水道歴史館に移築復元されている神田上水の石樋



④御茶ノ水駅付近の神田川は仙台伊達藩が開削した



④江戸城の天守台は加賀前田などの雄藩が築造を命じられた



④飯田橋駅前の牛込見附跡



④佃島の住吉神社



④佃吉神社門前には佃煮店が健在

には、今も江戸城外堀の枳形門ますがたもんの石垣が残り、都心風景に歴史遺産としての趣を与えている。

そして21世紀の現在でも家康とのつながりを強く持ち続けている地域が中央区の海辺の町・佃島だ。

1590年に家康が江戸に入ると、摂津国佃島の漁師33人と住吉神社の神職がかつての恩義に報いたいと江戸に向かい、その後1644年に鉄砲洲の向かいの干潟を下賜されて佃島を築いた。

今も佃島の漁業協同組合からは家康の好物だった白魚が、毎年3月に徳川將軍家の当主に献上されているという。住吉神社の門前には数件の佃煮店が健在。界限には古い家並みが見られ、漁師町だった頃の風情が感じられる。

東京労働局

6月集中指導、457現場に違反

8月

厚生労働省東京労働局が6月に都内の建設工事721現場で集中的な現場指導を実施したところ、63.4%に当たる457現場で法令違反を確認したため、うち62現場に作業停止命令などの行政処分を科しました。

集中的な現場指導は全国安全週間の取り組みとして実施しました。大半は建築工事で、違反現場数や違反率も建築工事が最多となっています。また、違反現場に占める行政処分を科した現場の割合は解体工事が最高でした。

違反の内容(重複あり)は▽元請け事業者の安全衛生管理面=392現場▽墜落・転落防止=245現場▽型枠支保工=67現場▽クレーンなど=14現場▽建設機械=19現場▽粉じん作業=19現場となっています。

	建築	土木	解体	その他	合計
指導現場数	647	12	22	40	721
法令違反現場数	422	5	10	20	457
違反率	65.2%	41.7%	45.5%	50.0%	63.4%
作業停止等命令現場数	58	0	2	2	62
法令違反現場比	13.7%	0.0%	20.0%	10.0%	13.6%

長時間労働の是正 建設2,636事業場に勧告

8月

厚生労働省は、長時間労働が疑われる事業場に対して労働基準監督署が2022年度に行った監督指導の結果をまとめました。建設業では3,228事業場を指導し、このうち81.6%に当たる2,636事業場で労働基準関係の法令違反が見つかり、是正を勧告しました。前年度と比べると監督指導件数が増え、法令違反の割合も大きくなっています。

時間外労働や休日労働が1カ月当たり80時間を超えていると考えられる事業場、長時間にわたる過重な労働により過労死などの労働災害補償保険の請求が行われた事業場を対象に監督指導しました。

建設業の主な違反事例を見ると、三六協定なく時間外労働をさせるなど、労働時間に関係したものが1,450件で最多でした。また、衛生委員会を設置していなかったり、労働時間を把握していなかったりといった健康障害防止措置が874件、賃金不払い残業も337件ありました。

東京労働局 死亡災害急増、対策徹底を

8月 9月

厚生労働省東京労働局は建設業の死亡災害が急増しているとして、労働災害防止対策を徹底するよう建設業界に呼び掛けています。7月から8月初旬にかけて高所からの墜落や熱中症などで6人が命を落としたためです。

管内の今年の建設業死亡災害は6月末まで3人とどまっていたものの、7月~8月10日のおよそ1カ月に6人が死亡。前年同時期の2人に比べ3倍で、事故の型別内訳は「高温、低温の物との接触(熱中症)が3人、「墜落、転落」と「倒壊、崩壊」、「おぼれ」がそれぞれ1人となっています。

事態を重く見た東京労働局は、ホームページに「建設業における労働災害防止対策の徹底について(緊急要請)」と題した告知を掲載。建設現場の労働災害防止対策の推進に当たって、五つの「特に留意すべき事項」を挙げて万全を期するよう訴えています。

死亡者数は9月1日時点で10人になりました。9月7日には建設業労働災害防止協会東京支部と緊急連絡会議を開きました。



特に留意すべき事項は▽死亡災害を発生させない旨の決意表明と発信▽安全衛生管理活動の活性化▽墜落・転落災害防止対策の徹底▽安全衛生教育の実施▽熱中症予防対策として暑さ指数に基づく管理および状況に応じた休息です。

7月の全国安全週間に東京労働局の辻田博局長(中央奥、当時)が大規模工事現場で安全パトロールを実施した

建設事業主助成金に72億円を要求

9月

厚生労働省は2024年度予算の概算要求で、建設労働者の雇用改善や能力開発を支援する「建設事業主等に対する助成金」に72億円を要求しました。建設事業主団体による建設キャリアアップシステム(CCUS)普及促進の取り組みを支援する他、若手や女性にとって魅力ある職場づくりとするための現場見学、インターンシップを後押しします。キャリアに応じた技能実習や、作業員宿舍の設置にも助成して、建設業の深刻な人手不足の解消につなげるとしています。

第14次労働災害防止計画に基づく事業には57億円を要求。建設業では墜落・転落災害対策のさらなる充実や、一人親方の安全衛生対策を推進する方針です。

化学物質や石綿のばく露防止対策に必要な経費には16億円を求めています。新たな化学物質規制を円滑に執行するため、建設業向けのばく露防止手法を検討します。建築物の解体に従事する労働者の石綿ばく露を防ぐため、事前調査の啓発動画を作成するとしています。

東京都最低賃金のお知らせ

みんなチェック!
最低賃金。



1,113 時間額 円

令和5年10月1日から

41円
UP

～東京で働く全ての労働者に東京都最低賃金が適用されます～

使いやすく
なりました!

業務改善助成金

事業場内の最低賃金を一定額以上引き上げ、生産性向上のための設備投資などを行う場合は、拡充された業務改善助成金をご活用ください。

詳しくは、

業務改善助成金コールセンター

☎ 0120-366-440

東京働き方改革推進支援センター

☎ 0120-232-865



○最低賃金に関するお問い合わせは
東京労働局賃金課最低賃金係 (☎03-3512-1614)
または 最寄りの労働基準監督署へ



東京都建設系高校生作品コンペティション2023

都内の高等学校建設系学科に学ぶ生徒の日頃の学習の成果を発表する場として、また広く一般の方々に建設に対する理解と関心を深めていただくことを目的として高校生が作成した作品を展示します。

皆様のご来場をお待ちしております。



ポスター部門最優秀賞 タイトル『彩りのある街』
東京都立工芸高等学校 定時制課程インテリア科3年 大根田 素子

●出展校

都立葛西工科高校／都立蔵前工科高校／都立工芸高校／
都立墨田工科高校／都立総合工科高校／都立田無工科高校／
都立農芸高校

日時 令和5年

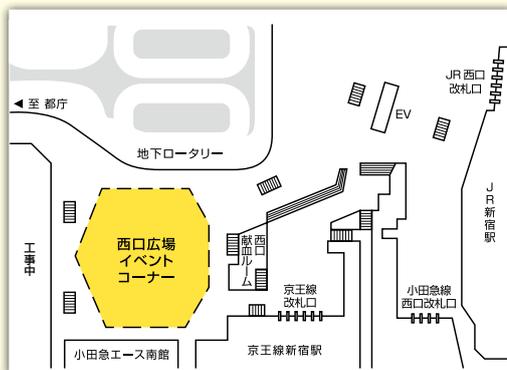
12月7日(木)10:00～18:00

8日(金)10:00～18:00

9日(土)10:00～16:00

会場 新宿駅西口広場イベントコーナー

アクセス



●部門

模型／製図／製図模写／家具／工芸／
実習／ポスター

■主催

一般社団法人東京建設業協会

■共催

東京都建設局

■後援

CCI東京(東京都魅力ある建設事業推進協議会)

2023年11月発行(年3回発行) No.130

Terra —建設雇用と改善TOKYO—

発行：一般社団法人東京建設業協会
建設労働者確保育成事業推進委員会

取材協力／建通新聞社

〒104-0032 東京都中央区八丁堀2-5-1

Tel 03-3552-5656 (代表)

URL <https://www.token.or.jp/>

編集後記

基本的なルールを守っていなかった。安全性を十分検討せずに作業を行った。

厚生労働省東京労働局は、7月から8月初旬にかけて熱中症や墜落などで6人が命を落とした建設業労働災害の発生要因をこのように分析し、現場全体の安全意識や安全管理能力の低下に懸念を表明。9月7日に災害防止団体との緊急連絡会議を開き、改めて各種の対策を徹底するよう業界に訴えていました。

ただ、9月19日には都心の再開発工事で鉄骨が落下して5人が死傷。多摩地域の高校改修工事でも5人が体調不良を訴え病院に搬送されたことが大きく報じられました。

いかなる状況でも「人命尊重」の基本理念の下、現場で働く人々の「安全」と「健康」を確保することが最優先。東京労働局の分析や懸念を真摯に受け止め、関係方面との連携を一層強めて課題の解決に取り組んでいきましょう。